

国指定史跡 骨寺村莊園遺跡

平成27年度調査概要



平成 28 年 3 月
一関市教育委員会

はじめに

一関市巖美町本寺地区は、中尊寺に残される『陸奥国骨寺村絵図』の現地として著名であり、「日本の原風景」ともいえる農村景観を今に伝えています。平安時代以来、中尊寺経蔵の荘園であったことが、中尊寺の古文書群や鎌倉幕府が編纂した歴史書『吾妻鏡』によって証明されています。平成17年には国史跡「骨寺村荘園遺跡」に指定、18年には「一関本寺の農村景観」として国の重要文化的景観に選定されています。市教育委員会は、25年度から重要文化的景観の追加選定にも取り組んでおり、27年1月26日には新たに6.7haが文部科学大臣から告示されたところです。

さて、骨寺村荘園遺跡と深い関係にある「平泉」は、23年6月に世界文化遺産に登録されました。世界遺産への拡張登録を目指している「骨寺村荘園遺跡」については、24年度に世界遺産暫定一覧表に登載され、市教育委員会では重点的に調査研究を行っています。

本年度は、25年度から継続している「白山社及び駒形根神社」と「梅木田遺跡」の発掘調査のほか、新たに「平泉野遺跡」の確認調査を実施しました。本書により、これらの調査成果を広く公開し、市民をはじめ全国の方々にも当市の文化財を知っていただき、関心が高まることを期待しています。また、地域のルーツを紐解いていくことが、より良い地域づくりの一助になれば望外の喜びです。

最後に、調査に際しては地権者、地域住民の皆さまをはじめ多くの方々のご協力をいただきました。衷心より感謝を申し上げます。

平成28年3月

一関市教育委員会

教育長 小菅正晴

例言

1. 本書は、平成27年度に一関市教育委員会（文化財課）が実施した骨寺村荘園遺跡に係る調査の概要報告書です。
2. 本書は、一関市教育委員会（文化財課）が執筆・編集しました。
3. 出土した遺物は、一関市教育委員会が保管しています。
4. 表紙は、平泉野遺跡（若井原194-115地点）の調査区全景写真です。

中尊寺と骨寺村



国指定重要文化財『陸奥国骨寺村絵図』（複製）原典は中尊寺蔵

平安時代末期、自在房蓮光^{じざいぼうれんこう}という僧侶は藤原清衡^{ふじわらのきよひら}の命令により紺紙金銀字交書一切経^{いっさいきょう}を完成させました。その功績により中尊寺経蔵の別当^{べつどう}（責任者）に命じられ、蓮光は自分の領地であった“骨寺村”を中尊寺経蔵に寄進^{きしん}（寄付）しました。こうして中尊寺領としての骨寺村が出発します。

中尊寺には、鎌倉時代後期の『陸奥国骨寺村絵図』2枚が残されています。この絵図は当時の本寺地区を描いたもので、中世の農村景観を伝える大変貴重な史料です。

絵図は、中尊寺と奥州藤原氏に代わってこの地を支配した葛西氏との所領争いにおける、裁判の証拠書類と考えられています。左側の絵図は、家屋^{たんぼ}、田圃、川や道などが詳しく描かれており“詳細絵図”と呼ばれています。それに対し右側の絵図は“簡略絵図”と呼ばれ、村を取り巻く山々がダイナミックに描かれています。

また、鎌倉幕府が編纂した歴史書『吾妻鏡』にも「骨寺」が登場します。源氏と藤原氏との戦いであった奥州合戦が終わった後、中尊寺僧心蓮^{しんれん}が源頼朝^{みなもとのよりとも}に対し寺の領地を安堵^{あんど}（保障）してくださいとお願いに行きました。すると頼朝は、その場で骨寺（東はかぎかけ^{かぎかけ}、西は山王窟^{さんのうのいわや}、南は磐井川^{みたけどう}、北は峰山堂^{まさか}の馬坂）を寺領として認めました。この際に示された骨寺村の範囲が絵図に描かれ、さらに四至^{しいし}（村境）は現在も地名や遺跡として残されています。

はくさんしゃおよ こまがたね じんじゃ
白山社及び駒形根神社の調査（中川6地点）

駒形根神社の北西約250mの丘陵北側の山裾にあるこの調査地点は、平成25年度から継続して調査を実施しています。これまでに、山裾の土を切り盛りして造り出した南北20m×東西15mの平場上に、礎石状の石材や長軸3間、短軸1間^(※)の掘立柱建物を確認しました。造成層からは17世紀の肥前産磁器皿片が出土していますが、造成は複数回行われた可能性もあるとしていました。また、平場の北脇には池状遺構も確認しています。

本年度は、平場造成の時期と礎石状石材および掘立柱建物との関係を明らかにするため、サブトレンチを設けて深掘りし、土層の断面の観察を行ったところ、以下のことが明らかになりました。

1. 平場の造成は1期だけであり、17世紀（江戸時代）以降に行われた。
2. 礎石状石材は全て17世紀の造成層の上にあることから、そこに置かれたのは17世紀以降である。
3. 掘立柱建物も平場造成以後に造られた。

掘立柱建物は軸が平場と一致せず、位置も平場の南西に偏ることから、造成当初は礎石建物があつた可能性が高いとみられます。礎石建物については、礎石状石材や根石状の集石などがありますが、痕跡が少なく規模を確定することはできませんでした。

※間…柱と柱の間の数



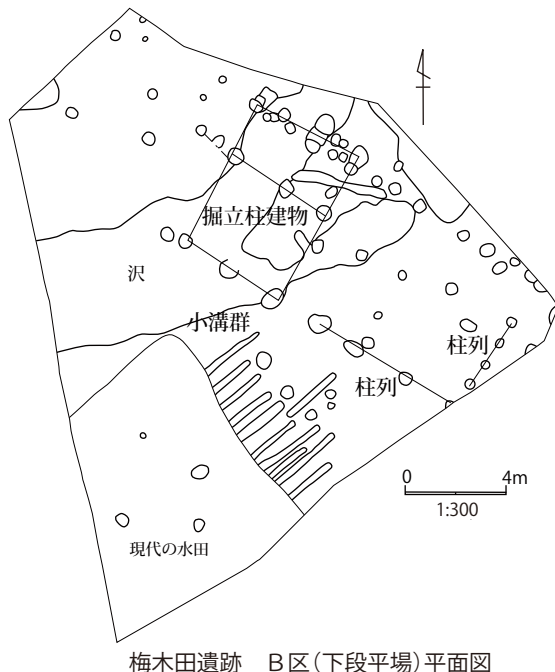
調査区全景写真 17世紀以降に造成された平場に掘立柱建物や礎石状石材があります

梅木田遺跡の調査

この調査地点でも、平成25年度から継続して調査を実施しています。中央部の平場では、丘陵の裾を切って造られた平場に、4時期にわたる江戸時代の建物の変遷やそれに伴う塀、溝、また自然の沢の跡などを確認しています。

本年度は、西側の上下の平場を掘削し、A区（上段）では自然の沢の跡を、B区（下段）では掘立柱建物1棟と柱列2条を確認しました。掘立柱建物は長軸2間、短軸2間で、柱列は1条は建物に平行、もう1条は直交することから、これらはセットで建てられたとみられます。いずれの柱穴からも遺物は出土していませんが、26年度調査で確認した江戸時代の建物と軸方向が同じであることから、同時代のものと考えられます。B区では、畑の耕作痕（天地返し）とみられる小溝群も確認しました。

これまでに確認した建物や柱列は、江戸時代の屋敷跡を構成するもので、「ウメノキ(梅木)」と呼ばれる屋敷があったとの地元の伝承を裏付けています。25年度調査で鎌倉時代の中国産青磁が出土していますが、その時期の遺構は確認できていません。江戸時代に行われた土地造成により、削られて失われた可能性が高いとみられます。



梅木田遺跡全景写真
上段平場がA区、下段平場がB区



B区（下段平場）全景写真

平泉野遺跡の調査（若井原194-115地点）

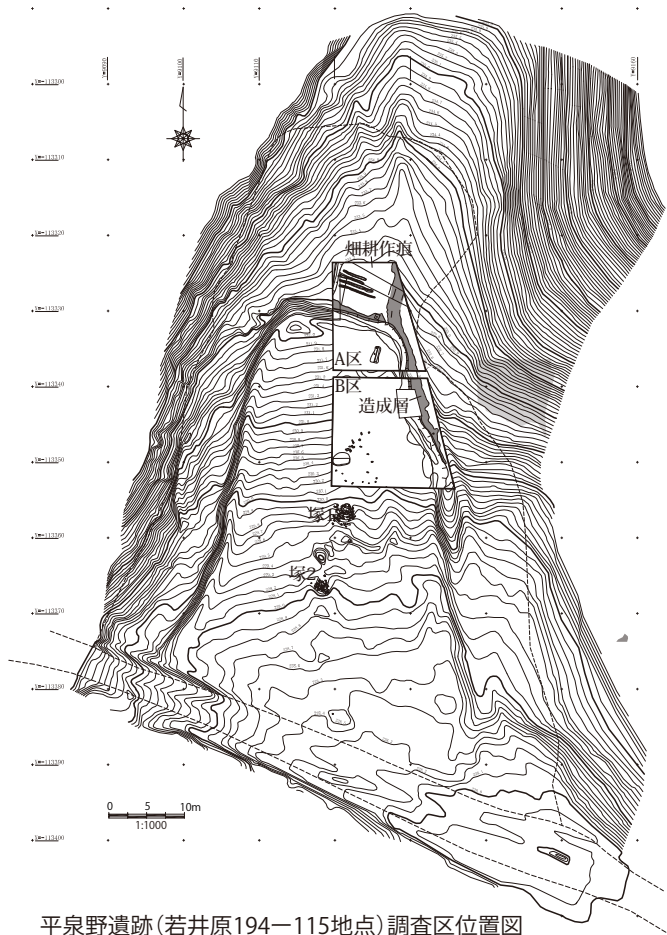
この遺跡は、「平泉野台地」と呼ばれる丘陵の頂部の南側、駒形根神社から西に走る道沿い約950mの地点にあります。南側が開いて裾が広がる「U」字形の段切り区画があり、その内側の中心付近に2基の塚があります。区画の長辺は約50m、短辺は約17mです。塚の直径は約3m、高さは約0.4mで表面には石が集中しています。本年度は、地形測量を行った後、塚の北東側に調査区A・B区を設定して発掘調査を実施しました。

段切り区画の造成は、山側を切り土して段を造り、段上の縁に盛土をして整形していました。また、区画の上段北側には、畑の耕作痕を確認しました。17世紀（江戸時代）の肥前産磁器皿片が出土した畑耕作土が区画の造成層を壊していることから、畑は17世紀以降、区画造成よりも後に造られたものです。区画の造成層から遺物は出土しませんが、炭化物を採取して放射性炭素年代測定（AMS法）を行った結果、江戸時代以降の造成であることがわかりました。

今回の調査区では、段切り区画の内側に遺構は確認できませんでした。区画は、内部の中心付近にある2基の塚を囲うためのものであったとみられますが、塚と区画は同じ年代に造られたのかを確認する必要があります。来年度は、塚とその周辺について調査する予定です。



調査区全景写真 調査区の北側・東側に造成された段切り区画が見えます



平泉野遺跡(若井原194-115地点)調査区位置図



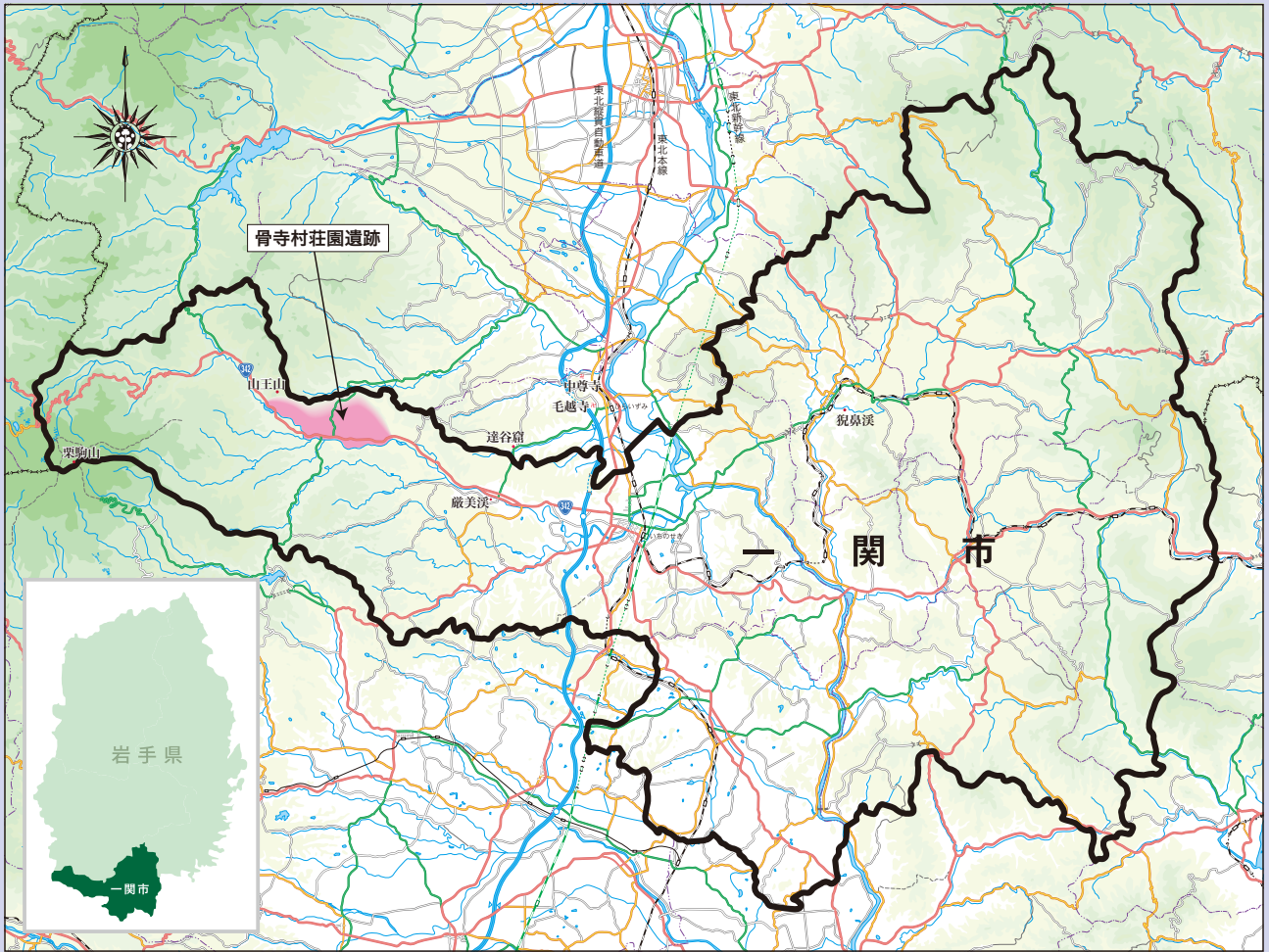
段切り区画の北辺 縞模様に見えるのが造成層



2基の塚 表面に石が集中しています



骨寺村荘園遺跡指定範囲図



骨寺村荘園遺跡位置図

国指定史跡 骨寺村荘園遺跡
— 平成27年度調査概要 —

【編集・発行】 一関市教育委員会
岩手県一関市竹山町7-2

【印刷】 川嶋印刷株式会社
岩手県西磐井郡平泉町平泉字佐野原21
平成28年3月